

PSA高値を指摘された方へ

前回受けられました血液検査の結果、前立腺がんの指標となるPSA（Prostate Specific Antigen：前立腺がん特異抗原）の数値が高い値を示していました。PSAの値は4ng/mLを越えると、前立腺がんの可能性があると知られています（PSA値4~10ng/mLで10-20%、10ng/mL以上で約70%がんの可能性）。つきましては、PSA高値の影響ががんによるものかそれ以外によるものかどうかを確かめるため、さらに詳しい検査をする必要があります。

前立腺がんは自覚症状も少ないため発見が遅れがちですが、放置していた場合は数年後に大きくなってまいります。その場合、排尿困難や骨転移による痛みのある症状が出現し、最終的に命にかかわる危険性があります。そのため早い段階で、必要に応じて適切な検査を受けていただく必要があります。

【どんな検査が必要なのか？】

1. 予約の日時に西神戸医療センター2階、泌尿器科診察受付までお越しください。都合上できるだけ月・水・木曜日の外来をご利用ください。
2. はじめに検尿、直腸診、超音波検査（エコー）などの検査を受けます。
3. 検査の結果がんの疑いがあれば、次に前立腺針生検を受けるため入院の手続きと、全身に大きな問題がないかチェックするための採血・心電図・レントゲン検査を実施します。
4. 入院し、前立腺針生検を実施します。
5. 退院時に次回の外来を予約します。針生検の検査結果を次回の外来でお伝えします。

○ 初めに受けていただく検査

直腸診

前立腺の大きさや硬さ、表面の状態などのさまざまな情報から、前立腺がんの可能性を探る検査法です。肛門から指を入れ、直腸の壁越しに前立腺に触れて診察をします。

超音波検査（エコー）

超音波検査は前立腺の大きさ、形、内部の状態、さらには膀胱などの尿路の状態を調べる検査法です。

※ 上記の検査で生検をするべきか判断が難しい場合は、MRIの撮影や特殊なPSAの採血を追加する場合があります。

○ 入院中に受けていただく検査

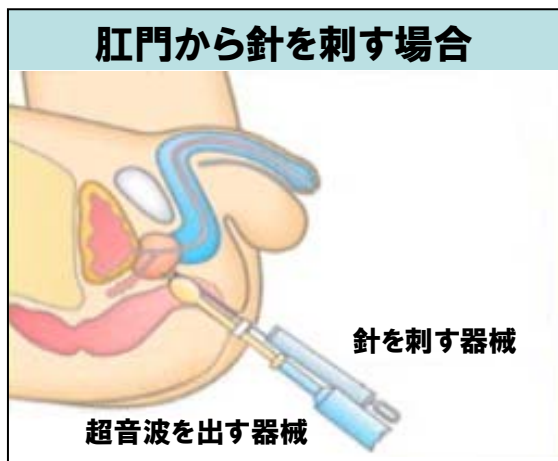
前立腺針生検

直腸診や超音波検査などの結果がんの疑いがある場合、前立腺針生検を実施します。針生検とは前立腺から組織をとって細胞を調べる検査法です。採取した前立腺の細胞は組織標本として顕微鏡で観察して、悪性（がん）か良性（前立腺肥大症や前立腺炎等）か判断します。

前立腺針生検（つづき）

検査は肛門から超音波を出す器具を挿入し、前立腺を観察しながら数箇所には針を刺して組織を採取します（図1）。通常10本～20本針を刺し組織を採取します。超音波の器械を挿入する鈍痛はありますが、針を刺す痛みはほとんどありません。検査後は1時間程度安静にする必要があります。70才以下の方は原則的に1泊入院で、71才以上又は抗凝固薬を服用されている方は原則的に2泊入院で行いません。

検査の流れ



（図1）前立腺針生検の方法

1. 点滴を行います
2. 簡単な局所麻酔を行います
3. 超音波で前立腺を観察します
4. 前立腺の組織を採取します

検査を受けられる方へのご注意

- ✓ お薬手帳等で、現在の内服薬の状況がわかるものを持参してください
- ✓ 血液を固まりにくくする薬（バファリン・バイアスピリン・ワーファリン・ペルサンチン等）を飲まれている場合は、事前にお知らせください
- ✓ 痔や肛門の手術を受けたことがある場合には、事前にお知らせください

検査時に起こる可能性のある合併症

- ✓ 血尿・血便：数日で自然に軽快します。まれに再出血したり、血腫（血の塊）で尿道がつまり導尿や尿道カテーテル留置が必要になったりすることがあります。
- ✓ 前立腺炎：2～3%の割合で、数時間から数日後（通常は検査当日）に高熱や排尿困難が出現することがあります。入院継続のうえ数日間、抗生物質の点滴、導尿や尿道カテーテル留置が必要となります。
- ✓ 非常にまれですが、麻酔薬によるショックや検査前には予想できないような重篤な合併症（脳卒中、肺塞栓症など）が起こることもあります。

検査後のご注意

- ✓ 退院後、38℃以上の発熱といった体調の変化があれば、早めに外来を受診してください（休日は救急外来を受診してください）
- ✓ 1週間程度はアルコール摂取や激しい運動（スポーツ・性交渉等）を控えてください

説明は以上です。ご不明な点がございましたら、担当の泌尿器科医にご質問ください。